

2011～2012年度改訂見通し

— 回復シナリオ維持も、内外での下振れ圧力から減速感が強まる見込み —

- (1) 2011年7～9月期の1次QEを織り込んで見通しを修正。2011年度の実質GDP成長率は、7～9月期が高めの成長となったことに加えて、4～6月期の実績値も上方に改定されたため、+0.4%から+0.6%に上方修正。一方、2012年度は、予測期間中の回復シナリオは変わらないものの、震災からの急回復一服や今夏以降の円高の影響を受けて、+2.4%から+1.9%に下方修正。
- (2) 10～12月期以降を展望すると、震災で落ち込んだ生産や個人消費の回復一巡がみられるなか、以下3点に挙げる内外での下振れ圧力から減速感が強まる見込み。
- ①海外経済の減速や円高による外需の鈍化。
 - ②円高による企業の海外シフト加速に伴う設備投資の低迷。
 - ③復興財源調達による家計負担の増加を通じた個人消費の抑制。
- (3) もっとも、回復・復興の動きが引き続き景気押し上げに作用するほか、新興国景気が堅調に推移するとみられることから、景気の腰折れは回避される見通し。

わが国経済・物価見通し

	2011年				2012年				2013年	(前期比年率、%、%ポイント)		
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	2010年度	2011年度	2012年度
	(予測)								(予測)			
実質GDP	▲ 2.7	▲ 1.3	6.0	1.3	2.7	1.9	1.7	1.1	0.6	2.4	0.6	1.9
個人消費	▲ 1.8	0.7	3.9	0.5	1.3	0.8	0.7	0.7	0.6	1.0	0.5	1.0
住宅投資	5.6	▲ 4.2	21.7	4.2	7.0	5.1	7.1	1.2	▲ 3.9	▲ 0.2	6.1	5.5
設備投資	▲ 4.5	▲ 1.9	4.4	1.9	2.4	3.2	4.0	3.0	2.6	4.2	0.0	3.0
在庫投資 (寄与度)	(▲ 0.9)	(0.7)	(0.8)	(▲ 0.3)	(0.2)	(0.2)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.5)	(0.2)	(0.1)
政府消費	3.6	2.7	1.6	1.9	1.5	1.1	0.4	1.2	1.2	2.3	2.3	1.2
公共投資	▲ 4.5	15.7	▲ 10.8	5.1	5.5	10.1	3.5	▲ 4.4	▲ 7.3	▲ 9.8	▲ 1.3	2.9
公的在庫 (寄与度)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
輸出	1.0	▲ 18.4	27.4	2.2	4.7	4.1	4.1	3.2	2.5	17.1	0.1	5.0
輸入	6.8	0.4	14.5	2.3	4.9	3.9	3.8	3.3	3.2	10.9	4.9	4.4
国内民需 (寄与度)	(▲ 2.5)	(0.7)	(4.3)	(0.3)	(1.4)	(1.2)	(1.3)	(0.9)	(0.6)	(1.4)	(0.6)	(1.3)
官公需 (寄与度)	(0.6)	(1.1)	(▲ 0.1)	(0.6)	(0.5)	(0.6)	(0.2)	(0.1)	(▲ 0.0)	(0.0)	(0.4)	(0.4)
純輸出 (寄与度)	(▲ 0.8)	(▲ 3.1)	(1.7)	(▲ 0.0)	(▲ 0.1)	(▲ 0.0)	(0.0)	(▲ 0.0)	(▲ 0.1)	(0.9)	(▲ 0.7)	(0.1)

	(前年同期比、%、%ポイント)											
名目GDP	▲ 2.9	▲ 3.2	▲ 1.9	▲ 0.9	0.6	2.4	1.4	1.1	0.8	0.4	▲ 1.4	1.4
GDPデフレーター	▲ 1.9	▲ 2.2	▲ 1.9	▲ 2.0	▲ 1.7	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 2.0	▲ 2.0	▲ 0.5
消費者物価 (除く生鮮)	▲ 0.8	▲ 0.2	0.2	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 0.3
完全失業率(%)	4.7	4.6	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	5.0	4.4	4.1
円ドル相場(円/ドル)	82	82	77	77	78	79	80	80	80	86	79	80
原油輸入価格(ドル/バレル)	97	115	114	110	110	110	110	110	110	84	112	110

(資料)内閣府、総務省などをもとに日本総合研究所作成